

## インテリジェントナースコールが実現する安心・安全の療養空間

大平 雅雄 株式会社ケアコム 企画室企画G

### 1. はじめに

1978年、第7回日本病院設備学会(当時)のシンポジウムで当社の主張する1ベッド1チャンネル(1B1C)方式のナースコールが取り上げられ、当時大きな反響を呼びました。患者様一人一人と看護師とを結ぶ通信手段が確立された瞬間です。1B1C方式のナースコールも30年近くが経ち、各種センサ機器の発達、病院情報システムの導入増加、といった環境の変化に伴い進歩してきました。患者様が自身の状態変化を知らせるナースコールから、患者様の状態をナースコールが予測して看護師に伝える時代になってきたのです。

最新のコンピュータナースコールと、ナースコールを通して実現する患者様の安心と安全管理について報告致します。さらに近未来のナースコールのあり方について考察致します。

### 2. 安心と安全管理への取り組み

患者様にとっての安心・安全管理の取り組みで重要な要素は3つあります。

治療に専念できる療養環境の提供

ナースコール予測による事前ケアの充実

患者様の周りに存在する危険をいち早く察知する

各種センサとの連携、病院情報システムとの連携

察知した危険を速やかに看護師に伝える

ハンディナースコール(PHS)の利用

こうした3つの要素への対応により、患者様への安全管理が可能となるのです。

- 1) いつも見守られているという安心感
- 2) 転倒・転落の危険防止
- 3) 医療機器の警報聞き漏れ防止
- 4) オーダ変更による投薬間違いの防止
- 5) 感染症の拡大防止(二次、三次感染者の特定)

患者様の安全は看護師の安心につながります。安全管理を行うことで看護師の負担が増えるのではなく、ナースコールがそのお手伝いをすることで看護師の負担を少なくし、よりケアの充実を図ることが出来るのです。

### 3. まとめ(今後の方向性: 2つのキーワード)

コーレス・ナースコール(患者様視点)

コンピュータナースコールによる予測機能の強化、充実により、患者様が呼ぶ前の先取りケアの更なる充実

ユビキタス・ナースコール(看護師視点)

いつでもどこでも患者様の状態、情報が確認できるナースコール親機の進歩  
ナースコールは情報機器の進化、院内情報システムとの連携強化により、インテリジェントナースコールとして病棟内のみならず、病院内で必要不可欠なツールとなることでしょう。